

連携室だより

鹿児島医セン

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

2020.1

vol. 165



新年明けまして
おめでとうございます。

院長 田中 康博

新年あけましておめでとうございます。令和になって最初の正月で、まさに新しい時代の幕開けと成りました。あらゆる分野でさらにイノベーションが進むものと考えています。医療も同じで新しい技術、手法、治療法が出てくると思われます。

さて、鹿児島医療センターは平成30年度、鹿児島通信病院の機能移転で増床となり2年目を迎えました。おかげさまで新入院患者は増加し、心臓・脳卒中・がんの3本柱のうち、がん部門が充実してきたと感じています。地域医療構想の中で急性期、高度急性期の役割を果たすべく基本部分が揃ってきたのではないのでしょうか。まだまだ不十分ですが、鹿児島の皆さまの期待を裏切らない、選ばれる病院を目指したいものです。

看護学生現代医療論の教科書、「医師の姿勢と心構え」の項に、「医師の毎日は診療に追われ、自分の時間であるべき夜間や休日さえ、いつ呼び出されるかもしれない犠牲の多い生活である。犠牲とは他人のために自分を殺すことであるが、医師の行為は患者のために自ら進んで自分を捧げる献身であり、医師はそれを身をもって実践している人々といえるのではないだろうか。それは人生の生き方の問題であり、尊い献身を日夜続けている医師にこそ、心からの敬意と感謝が捧げられることになるであろう」と書いて有りました。医師についての記載ですが、医療人に置き換えても同様のことが言えるかもしれません。また、アフガニスタンで亡くなられた中村 哲先生の高い志と行動力に感動を覚え、また医療人の一人として誇りに思えました。自分の身を犠牲にしてまでもやり遂げたい何か打ち込む姿が多くの人々に感動を与え、自分自身も働く生きがいになっていたのだろうと思っています。現時点で当院の働き方を問われると不十分です。高度医療を持続的に提供するには働き方改革が待ったなしですが、単に長時間労働だけの問題ではなく、「働き方改革と生きがい」を追求し、医療人としての良いプライドが持てる病院を目指したいと思っています。患者さん、救急隊や紹介元の医療機関をけって迷わすことがない医療も目標の一つです。

当院は若いスタッフの研修、教育にも力を入れています。研修医が集まっている現状はありがたい話です。当院附属看護学校も3年連続国家試験全員合格を打ち立てました。今年度から、診療看護師も加わり、認定看護師、特定看護師など質の高い医療を展開する基礎が出来上がりつつあります。もちろん看護の本質を忘れることのないようにしなければなりません。当院で良い医療、規範となる医療を学び、研修をし、巣立ち、鹿児島の各地で活躍し、鹿児島の医療の向上に少しでも役立ってもらえると嬉しい限りです。

さて、今年も患者満足度120%、職員の仕事満足度100%を目標にして精進したいと思っています。今年もよろしくお願いいたします。

幹部年賀状



副院長
中島 均

明けましておめでとうございます。

今年は元号が改まり、初めての正月になります。私自身は平成の改元も経験しておりますので、2回目になるわけですが、今回迎える令和2年はどのような年になるのか、楽しみ半分、心配半分というところです。

心配事としては、近年の気候変動による水害等の自然災害や大規模地震、また桜島を抱える鹿児島市としては、大正大噴火並みの災害があげられると思います。当院もここ数年桜島大噴火を想定した災害訓練を行ってきましたがあくまで机上の訓練ですので、実際にはどのような想定外の状況になるのか心配するときりがないところです。病院幹部の心構えとしてはあらゆる場面に対応できる柔軟性、応用力を鍛えておくことが重要なことであろうと思われます。吉本興業で明らかになった組織ガバナンスの問題も留意しておく必要ありそうです。

楽しみとしては、昨年のW杯ラグビーに象徴されるスポーツイベントで今年は7月から8月に56年目となる東京オリンピックが開催されます。10月には燃ゆる感動がごしま国体と銘打ち48年ぶりに鹿児島で国体が開催されます。昨年のラグビー日本代表プレイブ・プロッサムズが示してくれたスローガン：ワンチームの様に、鹿児島県民、日本国民が一つになって大会が盛り上がることを祈念しております。私もこの様な団結の力で病院一同一丸となり今年も困難を乗り越えていく所存です。何卒よろしくお願い致します。



統括診療部長
松崎 勉

明けましておめでとうございます。

昨年も、がん診療連携、緩和ケア連携等、当院がん診療部門におきましても大変お世話になり有難うございました。本年も引き続きご指導の程宜しくお願い申し上げます。

近年、がん診療・治療は更に多様化してきており、専門性が求められるという側面があり、知識・技術を高めながら診療にあたることは当然のこととして、“アドバンス・ケア・プランニング”の推進によりその人の価値観を大事にし、自己決定を支援しながら治療を考えるという側面も重要な視点とされており、当院においても課題は山積の状態です。

さて、昨年は、ノーベル賞の吉野先生やプロゴルファー“しぶこ”さんの笑顔は多くの人々を勇気づけてくれたのではないのでしょうか。今年は東京オリンピック、パラリンピックが開催され、沢山の笑顔に出会えることが期待されます。当院も地域がん診療連携拠点病院として、がん診療の充実を図りながら、地域の皆様の期待に応えられるよう連携の強化に取り組んで、課題の解決と素敵な笑顔に出会える年になるよう取り組んでいきたいと思っております。

本年も、どうぞ宜しくお願い致します。



臨床研究部長
城ヶ崎 倫久

あけましておめでとうございます。平成から令和へと元号が変わり初めての正月となりました。あらたまった気持ちで過ごされた方も多かったのではないのでしょうか。今年は2度目の東京オリンピックが夏に開催されることが決まっておりますので、今から楽しみにしています。

さて、昨年ブラックホールが撮影されたことはご存知のことと思います。地球上の6ヶ所の電波望遠鏡をつないで、地球サイズの仮想望遠鏡を作って撮影したということでした。この仮想望遠鏡では月の表面に置いたサッカーボールを見ることができるといった優れものです。

私もブラックホールが存在することは知っていたのですが、その存在を見ることができるとはつくづく幸運な時代に生きていると思います。人類の好奇心と研究の賜物だと思います。ブラックホール撮影に関わった研究者たちには及びませんが、同じ研究者として「生きている間にブラックホールを見つけるぞ」という気持ちだけは見習いたいと思っています。今年もよろしくお願い致します。



メディカルサポート
センター長 兼
地域連携部長

藺田 正浩

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、地域医療支援病院として、皆様からの多大なご指導とご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。メディカルサポートセンターでは、これからも、地域医療連携、入退院支援、がん相談支援を3本柱として、“顔の見える連携”を目指し活動いたします。

当院は、急性期医療の役割を目指して日々頑張っていますが、まだまだ在院日数が長く、後方支援を充実させる必要があります。現在の医療は単一の医療機関ですべてを完結させることは不可能であり、地域の診療所・医院(かかりつけ医)、リハビリ施設および地域中核病院との連携が不可欠です。病院訪問を通じて、前方・後方の連携を取れるように病診連携を充実させていきたいと思っております。

日々改善を目指して、職員が一丸となって良質の医療が提供できるように取り組んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



事務部長

河野 完治

新年明けましておめでとうございます。

今回はいつもよりも暦の繋がりで長い冬休みでしたが、ご家族とゆっくり過ごすことができたでしょうか。

昨年は、厚生労働省の統計不正調査問題に始まり、芸能人・スポーツ選手の薬物保持使用、新元号「令和」、あおり運転に高齢者交通事故多発、吉本興業の闇営業、大雨・台風被害、ラグビー日本代表の大活躍、消費税増税等々、並べればキリが無いくらい次から次へとテレビや新聞を賑わしてくれました。

今年は子年。ネットで調べますと色々な意味で始まりの年とされているようです。

働き方改革元年、業務の効率化を図り、その時間を有効に活用することで新たなことを見いだす。この促進は2020年診療報酬改定においても評価。

経営支援システム元年、収益確保と医療の質・病院機能の向上、原価計算による適正な医療資源の投入、それらの結果によりDPC係数の向上が期待される。

サラリーマン増税も新年からスタートです。年収850万円以上の方が対象です。税額自体は大したことないけど、出来れば払いたく無いのが本音かと。

そしてなんと言っても初では無いけど東京オリンピック。新しい陸上競技場や世界初の試みを持つ建物や設備の中で、新しい記録が次から次へと生まれるかも知れません。スタジアムに観戦に行かれる方もいらっしゃると思います(当方は全てはずれました)。

この始まりの年が皆様にとってより佳き年になるよう心より祈念いたしまして、年始の挨拶とさせていただきます。



看護部長

村田 淳子

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、新しい「令和時代」のスタートの年になりました。

鹿児島医療センター看護部では、新たに診療看護師2名と特定看護師2名が配置され、臨床の場で活躍しています。これらの看護師は、医学の知識と高度実践能力を身につけ、臨床現場の様々な場面で医師、看護師、多職種と連携・共同し、活躍が期待されており、まさに新しい時代にふさわしい看護職だといえます。今後は、共に働く看護師の良いキャリアモデルとなり、看護実践能力の向上に貢献してくれることを期待しています。

また、今年は、働き方改革の推進が叫ばれる中、私たちが求める働き方改革に取り組み、働きやすい職場環境、働きがいのある組織づくりに取り組んで参ります。これまでの慣習にとらわれることなく、「柔軟な働き方」を目指し、実現できるよう組織一丸となって、限られた時間と人材を有効に活用し、医療・看護の質を落とすことなく、患者・家族に信頼され、地域の皆様に選ばれる病院として努力して参りたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

第26回「愛祈祭」を終えて



第26回愛祈祭は“Beautiful Harmony～奏でよう、私たちの心～”というテーマで開催いたしました。Beautiful Harmonyとは、日本語で「美しい調和」という意味です。地域の方々、実習や学校で私たちを支えてくださっている病院職員、患者さんや家族とのつながりを深めるとともに、学生1人1人の思いを美しく調和させることで、参加される皆様に日頃の感謝の思いを伝えたいと考えました。



前日には地域清掃を行い、当日は地域の方々を

お招きしました。主な催し物として、高血圧やインフルエンザの予防など馴染みのある疾患や災害時に役立つ情報を提供する学習発表やバンド、合唱などの発表会、バザー、喫茶、健康チェックなどを行いました。様々な企画を通して、地域の方々とのつながりを深めるとともに、参加された方々にも楽しんでいただけたと思います。

愛祈祭を通して、学生221名の思いを一つにすることは大変でしたが、全員で協力し合うことの大切さを学ぶことができました。これから、3年生は国家試験、1・2年生は実習や学習に向けて、さらに学生全員で努力していきたいと思いをします。

(文責：第26回愛祈祭 実行委員長2年 田川 寿々奈・副実行委員長2年 脇岡 亜弥)





クリスマス コンサート

令和元年12月7日、鹿児島医療センター外来ホールにて恒例のクリスマスコンサートが行われました。医療サービス向上委員会では患者様やご家族が笑顔になれるような行事を行っており、今年も昨年同様ケーキやお菓子、飲み物を用意し皆様に楽しんでいただけるような内容を企画しました。トップバッターのつくし保育園園児達の可愛らしい歌声には患者様の笑みがこぼれており、BON D Xさんによる迫力あるバンド演奏では最後に演奏者と観客の大合唱が起こりました。看護学生のコーラスは優しい歌声を観客に届け、サザンウィンド吹奏楽団による歌謡曲メドレーは懐かしい内容だった事も患者様の心に響いているようでした。看護師長会による息の合ったハンドベル演奏は美しい音色でクリスマスの雰囲気が高まり、トリをかざった琴伝流大正琴びおら会による大正琴演奏ではクリスマスソングに加え「銀座の恋の物語」という歌謡曲も演奏し大きな拍手でコンサートは幕を閉じました。

今年度もたくさんの医療スタッフのご協力のおかげで無事にクリスマスコンサートを終えることができました。病室にいらっしゃる入院患者様がケーキを食べながら笑顔でコンサートを楽しんでいる姿や、普段あまり食事をとれていない方もデザートを食べる事ができ、喜んでいる姿を見るとクリスマスコンサートが入院中の些細な楽しみになれたのではと感じます。今後も患者様に喜んで頂けるような企画を検討し医療サービス向上に取り組んでいきたいと思います。

(文責：医療サービス向上委員 菊樂 祐太)



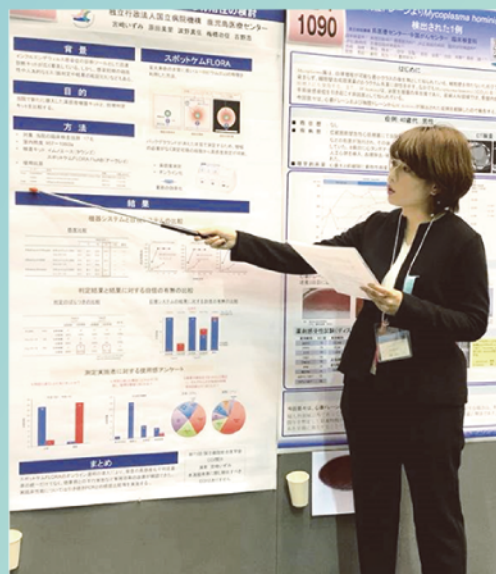
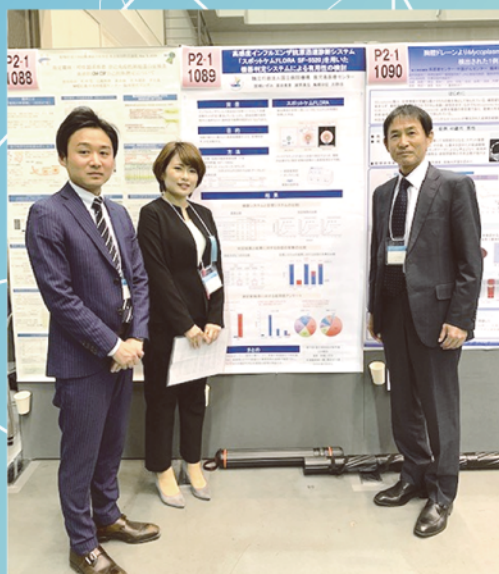


第73回 国立病院総合医学学会に参加して

令和元年11月8～9日に名古屋国際会議場で開催された、第73回国立病院総合医学学会に参加しました。2日目の午前、私は初めてのポスター発表で緊張しながら『高感度インフルエンザ抗原迅速診断システム「スポットケムフローSF-5520」を用いた機器判定システムによる有用性の検討』について発表しました。冬場に大流行するインフルエンザの迅速診断法は以前、イムノクロマト法による目視判定でしたが、現在、当院では新たにスポットケムフローSF-5520が導入されています。スポットケムフロー SF-5520は以前のイムノクロマト法と比べ、高感度であり電子カルテとのオンライン化により結果の入力間違いがなくなったことについて報告しました。

普段参加している検査学会は臨床検査技師のみですが、本学会は他部門の医療従事者が参加しており、一般演題、ポスター発表、シンポジウムなど他部門についてもいろいろと知る事ができる絶好の場でした。また、国立病院機構だけでこれほどの人数が集まることに、国立病院機構のネットワークの凄さに驚かされました。自分の部署だけでなく他部門との関連も学ぶことができ、検査科でも違った角度からアウトプット出来ればと思いました。来年は新潟県で国立病院総合医学学会が開催される予定です。料理と日本酒がおいしい県ですので、機会があればもっと多くの研究や学びを得るために参加したいと思っています。

(文責：臨床検査科 宮崎 いずみ)



■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター(心臓病・脳卒中・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <https://kagomc.hosp.go.jp/>

【地域連携】 蘭田・丹後田・西辻・吉永・迫田・椎原・吉留・久保・櫻木・田辺・山之内・山口

【がん相談】 松崎・森・水元・原田・菊永・杉本・児玉

地域連携室専用 FAX▶099(223)1177

※休日・時間外は当直者で対応します。

